平成25年度　第１回　大阪府環境審議会温暖化対策部会議事概要

１．と　き：平成25年８月19日（月）　午後２時～午後４時

２．ところ：大阪府咲洲庁舎38階会議室

３．出席者：水野部会長、鈴木委員、高村委員、槇村委員、松村委員、

４．議事

（１）　大阪府域における2011年度の温室効果ガス排出量について

－資料１　　大阪府域における2011年度の温室効果ガス排出量について

－参考資料１－１　　平成24年度のCO2排出係数の報告について

－参考資料１－２　　国における2011年度の温室効果ガス排出量について

（２）大阪府地球温暖化対策実行計画の進捗状況について

－資料２－１　　地球温暖化対策推進委員会（H24.8.30）での指摘に対する対応について

－資料２－２　　大阪府地球温暖化対策実行計画の進捗状況について

－参考資料２－１　　大阪府の地球温暖化対策の主な施策・事業について

－参考資料２－２　　大阪府地球温暖化対策実行計画

（３）　おおさかストップ温暖化賞について

－資料３　　大阪府温暖化防止事業活動表彰制度（おおさかストップ温暖化賞）について

－参考資料３　　大阪府温暖化防止事業活動表彰制度要綱

（４）　その他

４．質疑応答要旨　等

（１）大阪府域における2011年度の温室効果ガス排出量について

【委員】

○運輸部門の排出量について、自動車の走行量が横ばいである一方で、前年度と比較して大きく低下しているが、その要因は何か。

【事務局】

○排出量の算定誤差に加えて、エコカーの普及台数が2009年度の18万台から2010年度の31万台（2011年度は42万台（資料２－２））となるなど、近年大きく増加していること、また、旅客自動車の内訳として軽自動車の割合が増えたことが大きな原因と考えている。

【委員】
○資料の温室効果ガス排出量の推移の表について、対 1990 年度の増減率の値だけでなく、対前年度の増減率の値も傾向の把握のため記載してほしい。

【事務局】
○排出量の推移の表については対前年度の値も記載したい。

【委員】
○温室効果ガスの排出量に影響のある指標として、太陽光発電の導入量の推移等、再生可能エネルギーの導入状況についても資料で示してほしい。

【事務局】
○太陽光発電の導入量の推移等、再生可能エネルギーの導入状況についても可能な範囲でお示しするようにしたい。

【委員】
○民生家庭部門における 1 世帯あたり、1 人あたりの 2010 年度のエネルギー消費量が 2009 年度や 2011 年度と比較して高くなっているがその要因は何か。

【事務局】
○2010 年度は酷暑・厳冬であったため、単位あたりのエネルギー消費量が高くなっている。

【委員】
○エネルギー転換部門で熱供給業等から排出量が増えている原因は何か。

【事務局】
○熱供給業が増えている要因については、また、確認して報告したい。

【委員】
○関西電力の電力排出係数の 2010 年度から 2011 年度の増加割合は、全国の電気事業者の電力排出係数と比較してどうか。

【事務局】

○全国の排出係数は 0.413 から 0.510 と約 1.2 倍となっているが、関西電力は 0.311 から 0.450 と約 1.4 倍となっており、関西電力は原子力発電への依存度が高かった分、排出係数の増加割合も高くなっている。

【委員】
○産業部門の増減の内訳で、石油製品・石炭製品製造業が大きく増加しているが、一過性のものか。

【事務局】
○1990 年度との比較で約２倍となっているが、これまで少しずつ増加してきた結果であり、一過性のものではない。

【委員】
○電気の使用による排出係数が高くなっており、これによる排出量増加に対する対応は今後、国の動向を踏まえ対応する必要があると思う。
○また、今日の資料で示された温室効果ガス排出量の算定結果については、特に問題が認められないと考えられるため、これを 2008 年度から 2011 年度の大阪府域の温室効果ガス排出量の算定値としてよろしいか。

（異議なし）

（２）大阪府地球温暖化対策実行計画の進捗状況について
【委員】
○参考資料２－２は、記載されている項目が実行計画の直接の進行管理の対象となっていないため、参考資料扱いということだが、大阪府の温室効果ガス排出対策の対策が一覧できる資料かと思う。資料２－２とあわせてまとめてもらえないか。

【事務局】
○次回は、参考資料とせずに資料としてとりまとめしてお示しする。

【委員】
○スマートメータの設置件数を見える化の普及指標として掲載しているが、スマートメータを付けるだけでは見える化につながらない。スマートメータを設置したうえで、電力消費量の見える化に活用している件数を把握してほしい。

【事務局】
○スマートメータがどの程度活用されているかについて、実際に設置している家庭に対して府政モニターを活用して調査するという方法もある。今後、どのような方法があるかを検討したい。

【委員】
○資料２－２において、計画で数値目標を掲げている対策の予算額が 0 千円となっている対策項目が数多く認められる。これは数値目標を掲げているにも係わらず対策を実施していないということか。

【事務局】
○例えば、大阪版カーボンオフセット制度の推進事業であれば、大阪府として予算措置をしていないが、実施機関である大阪府みどり公社が今年度も中小事業者のクレジットの創出等の活動を行っている。
○また、エコカー普及事業も 0 円となっているが、エコカー協働普及サポートネットという組織を運営し、ディーラー・メーカー等と協力したエコカー普及イベントの実施や補助金の有効活用の呼びかけなどの予算額上には現れてこない普及啓発活動を実施している。

【委員】
○予算額が 0 円という記載が並んでいると、対策として何も実施していない印象を受ける。
○予算額を記載する以外にも、実施している対策の内容を記載するなど資料の書き方を工夫してほしい。

【事務局】
○了解。

【委員】
○資料２－２について、対策項目の実施状況について、○、×、△の評価が記載されているが、この基準を教えてほしい。資料を見ただけでわかるようにしてほしい。

【事務局】

○2014 年度の目標年度で見たときに達成できそうなものは○、達成が困難な状況にあるものは×、達成できるかどうか不確定なものは△としている。△のものなど、表を見ただけでわかりにくいものは、評価の横に備考欄を設ける等して説明を加えるようにしたい。

【委員】
○省エネ相談窓口について、予算額が 0 円となっている。この施策は事業者からの需要もあり、有効な施策であると思うがなぜ 0 円となっているのか。

【事務局】
○省エネ相談窓口について、予算額は 0 円となっているが、大阪府から環境農林水産総合研究所に依頼して今年度も継続して事業を実施している。

【委員】
○府の再生可能エネルギーの普及方策について教えてほしい。再生可能エネルギーとしては、太陽熱の利用も考えられると思うが、府の取組み状況はどうか。

【事務局】
○再生可能エネルギーの普及については、今年度より府市共同で、エネルギー政策課内におおさかスマートエネルギーセンターを設置し、事業者や一般の方からの問い合わせに対してワンストップで提供するサービスを実施している。
○また、太陽光発電の融資制度や公共施設を中心とした屋根貸のマッチング事業を実施している。
○太陽熱利用は、現時点では具体的な施策はないが、情報収集はしており、今後検討していきたい。

【委員】
○温暖化に対する適応策について、府の取組み状況はどうか。

【事務局】
○適応策については、どのような内容を実行計画に入れていくかということも含めて国の動向を踏まえて決定していきたい。

【委員】
○LED 道路照明灯について、導入による温室効果ガス削減量の概算が示されているが、道路照明は元々効率が良いものが使われているので本当に削減が図れて

いるのか確認をしてほしい。
○また、道路関係では、信号機の LED 化のほうがより効果が大きいと思うが、対策メニューにあがっていないのはなぜか。

【事務局】
○道路照明灯の実際の削減効果については、別途確認するようにしたい。
○また、信号機については大阪府警で所管されているが、何らかの方法で状況を確認したい。

【委員】
○環境家計簿の取組み世帯数について、2011 年度から 2012 年度にかけて大幅に減少しており、目標の達成が困難な状況となっているがその要因は何か。

【事務局】
○結果は、市町村の取組みを集計したものだが、大阪市の世帯数が減っているのが大きな要因。市は、独自に取組みをされている。また、家計簿の達成目標は、府内の世帯数のおおよそ 1%ということで目標を掲げていたが、結果としては、達成が難しい状況となっている。

【委員】
○府として後押ししていくことはないのか。

【事務局】
○温暖化センターの推進員の活動を通じて後押しをしたり、環境家計簿の配布やイベントでチラシをまくのに協力している。取組み件数は、市に家計簿を提出いただいているもののみをカウントしており、実際の件数はもっと多いと思う。

【委員】
○数値目標を掲げている対策が、年々減少し、未達成となるのは良くない。府として普及するための対策を考えてほしい。

【事務局】
○府の環境審議会での需要家の取組みが重要であるという答申を踏まえ、見える化の推進を図るため、府、市町村、事業者、府民団体等からなるスマートエネルギー協議会を設置して、意見交換をしている。その家庭部門の中で、HEMS

や環境家計簿の課題等も含めて議論が出来れば良いと思う。
○また、市町村部門もあり、環境家計簿等の普及について市町村との連携も深めていければ良いと思う。

【委員】
○環境家計簿について、ある団体から行政からの働きかけも少なく、もう実施しなくても良いのではないかという声も聞いている。環境家計簿が施策として必要ということであれば各自治体から積極的に呼びかけてもらうようにすれば良いと思う。

【委員】
○目標としては、環境家計簿をやった人を増やすというよりも、見える化を推進する人を増やして行こうとであったと思う。そのため、環境家計簿以外の見える化の取組みが増えている等、その他の事情があればその内容を資料に記載してもらえば良い。

【委員】
○実行計画に記載されている公共交通のシームレス化については、毎年の進行管理をすることが難しいということで、実行計画の数値目標には入れていないが、重要な項目ということで重点施策という位置付けにされたと思う。
○しかし、参考資料２－１を見ると、重点施策であるにも関わらず、関連する公共交通の利用促進事業の予算がゼロということはどういうことか。実行計画というのはそんなに軽いものであるのか。
○懸念しているのは、公共交通のシームレス計画を作るということで実行計画の策定時に府のスタンスを示したのにもかかわらず資料を見ても何をしているのかわからないことである。
○重点施策として、掲げたものについて、実際に何をしているのかわかるような資料にすることが必要である。

【事務局】
○数値目標を記載していないものや、予算がセロとなっているものについても文章で記載するなどして、実行計画の進捗内容がわかるようなかたちにしたい。

【委員】
○資料２－２について、委員の皆さんの意見を踏まえてバージョンアップさせたものを次回の部会までに示していただければと思う。

【事務局】
○来年の１月までにはお示しする。

（３）　おおさかストップ温暖化賞について
【委員】
○届出データを元にした選定方式から公募方式にするとのことだが、特定事業者について、温暖化対策指針で設定された年１%の削減目標を満たすこと等、最低限の基準は示したほうが良い。
○公募形式でも良いがなかなか応募が集まらない可能性もあるため、府から推薦の余地を残しておいたほうが良いのではないか。
○また、選考の際は、大変参考となるため、業務部門ごとの各事業者の排出量削減状況の資料もあわせて示してほしい。

【事務局】
○応募の方法や選定基準については、詳細を検討したい。また、部門別の排出量の状況についても従来と同様のものをあわせて示すようにしたい。

【委員】
○中小事業者に過去 3 年間の状況を報告させるのは難しいのではないか。

【事務局】
○原則３年間の評価を考えているが、現地で状況確認することにより、データの不足を補うなど、方法については検討したい。
○また、特定事業者部門、中小事業者部門等、部門ごとに選定方法を分けたいと考えている。

【委員】
○行政は対象外だったが、今回もそうするのか。

【事務局】
○行政機関はこれまで除外していたが、委員の先生の意見をお伺いしたい。

【委員】

〇行政部門を入れることは率先行動につながるので問題はない。

【委員】
〇行政部門については、個別か全体かの議論も必要。

【委員】
〇詳細については、また次回の部会までに意見聴取の機会をもらうとして、応募方式に変更することについては異議なしということで良いか。

（異議なし）

(４)　その他について
【事務局】
〇次の部会については、例年１月中旬ごろに開催しているが、温暖化防止条例に基づく「おおさかストップ温暖化賞」の選考をお願いしたい。
〇また、未定ではあるが、国の動向を注視しつつ、今後、環境審議会に実行計画の見直しについて諮問することになれば、本部会において年度内にも審議をお願いしたいと考えている。

以上